

平成 24 年 11 月 1 日

各 位

会 社 名：古河電気工業株式会社
(コード番号：5801 東証・大証第一部)
代 表 者：取締役社長 柴田 光義
問い合わせ先：経営企画室 IR・広報ユニット長
鈴木 治
(TEL03-3286-3050)

事業構造改革の概要と効果に関するお知らせ

当社グループはこの度、来期（平成 26 年 3 月期）からの次期中期経営計画の収益性底上げをめざし、国内を中心とした事業の構造を見直す改革を実施することで、来期からの 3 年間で営業利益を計 180 億円改善いたします。

国内事業は、円高・デフレの継続・人口の減少などの背景から、今後も市場縮小・コストアップといった構造的に厳しい状況が続くという認識に基づき、市場の縮小に合わせた拠点集約／縮小、海外シフトによるコストダウンを加速・推進していきます。

あわせてさらなる成長に向けたグループ・グローバル経営の仕組みづくりを進めてまいります。以下に本事業構造改革の概要と効果をお知らせします。

記

1. 事業構造改革の概要

1) 国内事業の集約・海外シフトの主な案件

- ・「光ケーブル」「導電材」「電力部品」事業で生産拠点を集約します。
- ・「巻線（汎用太物エナメル線）」事業で生産規模を縮小します。
- ・「銅箔の一部」「巻線（三層絶縁線）」「産業用電線の一部」事業で生産拠点を海外にシフトします。
- ・当社を中心として、管理部門をスリム化（20%のコストカット）します。

2) グループ内の人員シフト

- ・当社を中心とする計 600 人を今後成長が期待される事業分野に 200 人、自然減補充に 400 人の再配置を実施します。

2. 事業構造改革の効果

事業構造改革の実施により、平成 26 年 3 月期～平成 28 年 3 月期の 3 年間（次期中期経営計画期間）で営業利益を計 180 億円改善いたします。

3. グループ・グローバル経営の仕組みづくり（平成 25 年 4 月から新体制スタート）

- 1) 現行のカンパニー制から戦略事業単位（SBU）制へ移行することにより、当社とグループ会社が一体となったグローバル経営をめざします。
- 2) 営業・マーケティングの全社横断組織の編成により、トータルソリューション型案件での顧客対応力の向上をめざします。
- 3) グローバルで戦い抜ける事業を選別するとともに、投資についても戦略に基づいた優先順位付けを実施し、経営資源を効果的に投下していきます。

以 上